



え・古屋智子

# その困難には 意味がある

**A** KB48という日本のトップアイドルグループに所属していた指原莉乃さん（22歳）。平成二十五年六月、「選抜総選挙」というファン投票イベントで一位を獲得しました。

彼女は、前年の総選挙では四位でした。その直後、福岡県博多で活動するHKT48に移籍となります。「恋愛禁止」というグループ内のルールを破ったことが発覚したからです。

その際、総合プロデューサーの秋元康氏から「貢献しなさい」と諭されます。移籍後、指原さんは、当時まだシングルデビューを果たしていなかったグループを大いに盛り上げ、全国のファンを惹きつけます。その結果、一度はシングルで引退まで追い詰められた状況から一転、冒頭の選挙でシングル曲のセンターポジションを勝ち取るに至ったのでした。

指原さんは著書『逆転力〜ピンチを待て〜』（講談社MOOK）で次のように語っています。「挫折できてラッキー。私の人生にはピン

チが必要なんです。もつともつと、貢献しなければいけない」

突如、左遷に近い処遇を課せられるという困難の内に、指原さんは「今は、貢献する時、役立つ時、喜ばれる存在になる時」と、起きた事象が教える意味を捉えます。そして、新しく加わったグループのメンバーを励まし、支え、ファンの期待にも応えるという働きによって、自分の個性が最も輝く生き方を手にしたのでした。

\*

倫理法人会役員として尽力されている食肉産産店を営むSさん。平成二十三年六月、資金繰りが悪化し、倒産の危機に立たされます。

倫理経営指導を受けると、父の墓参を通じて、感謝を深めることの大切さを教えられます。Sさんは墓石の掃除、花を手向け、必死に詫び、応援の要請を亡き父に訴えたのでした。夜中に飲み歩く、二十年來の生活も改めました。

幾週間後、氏の商品がテレビ放映されるハプニングによって、爆発的な売れ行きとなり、資金繰り

が回復するというドラマが会社を救います。

Sさんはこの一連の経験を通して、亡き父の真の願いに目覚め、愛情を知りました。倒産の危機そのものが、「父の真の息子となり、途切れていた絆を紡ぎ直すことが必要だ」と気づくための、刺激として起きた苦しみだったのだと、その意味を解釈したのでした。

紹介した事例に共通しているのは、耐え難いような環境下に自身が置かれた時、その事象が示唆するメッセージを的確に捉え、改善あるいは向上のための取り組み（実践）に全身全霊を傾けたことであるといえるでしょう。

純粋倫理では、苦難の意味を知り、原因を取り去り、自然な生活に戻るための実践に挑む時、これまで人の役に立ってきた努力が報われるというのです。

幸福への活路は、生活の赤信号として知らされるメッセージに勇気を奮い起こして向き合うことから開かれます。その時、ピンチはチャンスへと昇華されるのです。